

## ■第二次湖南省総合計画にかかるアンケート調査 調査結果のまとめ

### 住みごこち

- 【一般】 湖南省が住みやすいかどうか（問1、P6）
  - ・「住みやすい」、「どちらかという住みやすい」を合わせると、回答者の 71.1%が「住みやすい」としている。前回調査と比べ、合計値は変わっていないが、「住みやすい」と回答した割合が4.6ポイント減少している。
  - ・一方、「どちらかという住みにくい」、「住みにくい」を合わせると、回答者の 23.4%が「住みにくい」としている。前回調査と比べ、2.5ポイントの減少となる。
  - ・60歳代で住みやすさへの評価が高く、50歳代で低くなっている。
  - ・居住地区別では、三雲・石部南・水戸で住みやすさへの評価が高い。しかし、下田では回答者の3割以上が「どちらかという住みにくい」または「住みにくい」と回答している。
  
- 【中学生】 湖南省が好きかどうか（問1、P9）
  - ・「とても好き」、「どちらかという好き」を合わせると、回答者の 66.6%が「好き」としている。前回調査と比べ、5.3ポイントの増加となる。
  - ・一方、「どちらかという好きでない」、「好きでない」を合わせると、回答者の 18.1%が「好きでない」としている。前回調査と比べ、2.2ポイントの減少となる。
  - ・男性は「とても好き」、女性は「どちらかという好き」の選択率が高い。
  - ・「とても好き」、「どちらかという好き」の合計は、甲西北で最も多く、70.4%となっている。また、甲西・石部・日枝においても6割を超える生徒が「好き」と回答している。
  
- 【一般】 住みやすい理由（問2、P11）
  - ・「安全で安心なまちだから」、「近所の人たちがあたたかいから」、「買い物が便利だから」への支持が高い。前回調査と比べ、「安全で安心なまちだから」の選択率が大きく増加（11.1ポイント）している。一方、「勤務地が近いから」、「交通が便利だから」の選択率が減少（5.6ポイント、5.1ポイント）している。
  - ・男性は「勤務地が近いから」、女性は「近所の人たちがあたたかいから」の選択率が高い。
  - ・全ての年齢において「安全で安心なまちだから」が最も多く、10歳代と60歳以上では60%を超えている。
  - ・特に菩提寺で、「安全で安心なまちだから」を選択する割合が高い。石部では「買い物が便利だから」の選択率が高く、回答者の5割を超える一方、菩提寺・下田では回答者の2割以下となっており、地域差が見られる。
  
- 【中学生】 好きな理由（問2、P15）
  - ・「みんなで遊んだり、楽しんだりできるところがあるから」、「自然がたくさんあるから」、「湖南省に生まれ育ったから」への支持が高い。前回調査と比べ、「自然がたくさんあるから」、「湖南省に生まれ育ったから」の選択率が減少（4.3ポイント、2.6ポイント）している。一方、「文化やスポーツの楽しいイベントがあるから」の選択率が増加（8.2ポイント）

している。

- ・男性は「みんなで遊んだり、楽しんだりできるところがあるから」、女性は「湖南省に生まれ育ったから」の選択率が高い。
- ・湖南省のことが「好き」と回答する割合が最も高い甲西北をはじめ、石部では「自然がたくさんあるから」が最も多い。また、「みんなで遊んだり、楽しんだりできるところがあるから」、「湖南省に生まれ育ったから」は全ての中学校区で高く支持されている。

●【一般】 住みにくい理由（問3、P18）

- ・「交通が不便だから」への支持が高く、回答者の72.8%を占めている。「買い物が不便だから」も回答者の4割以上となっている。前回調査と比べ、「交通が不便だから」の選択率が増加（3.2ポイント）している。
- ・全ての年齢において、「交通が不便だから」が高く支持されている。また、年齢が高いほど「医療・福祉のサービスや施設が十分でないから」の選択率が高い。一方、若い世代をみると、10歳代では「娯楽や余暇を楽しむ場が少ないから」、20歳代では「勤務地が遠いから」の選択率が高い。
- ・全ての地区で「交通が不便だから」の支持が高く、特に菩提寺・菩提寺北・水戸では回答者の8割以上が選択している。三雲東では「買い物が不便だから」を選択する割合が高い。

●【中学生】 好きでない理由（問3、P22）

- ・「買い物が不便だから」、「ほかのまちに魅力を感じるから」への支持が高く、回答者の5割を超えている。前回調査と比べ、「買い物に不便だから」の選択率が大きく減少（12.2ポイント）し、「ほかのまちに魅力を感じるから」は増加（7.8ポイント）している。
- ・「みんなで遊んだり、楽しんだりできるところが少ないから」の選択率が、男性は低く、女性が高い。
- ・石部・甲西北では「買い物が不便だから」、甲西・日枝では「買い物が不便だから」と「ほかのまちに魅力を感じるから」の選択率が高い。

## まちの将来像

●【一般】 将来の湖南省のイメージ（問4、P25）

- ・「自然が豊か」が最も多く、次いで「便利」、「快適」の順となっている。
- ・10歳代と50歳以上は「自然が豊か」が、20～40歳代では「便利」が最も多くなっている。
- ・下田と水戸を除く全ての地区で「自然が豊か」が、下田と水戸では「便利」が最も多くなっている。

●【中学生】 将来の湖南省のイメージ（問5、P28）

- ・「自然が豊か」が最も多く、次いで「楽しい」、「便利」、「快適」、「あたたかい」の順となっている。
- ・全ての中学校で「自然が豊か」が最も多く、特に石部・甲西北で4割を超えている。

●【一 般】 どんなまちにしたいか（問5、P32）

- ・「道路や公共交通が快適で便利なまち」、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」、「犯罪や事故のない安全で安心なまち」への支持が高い。
- ・前回の調査と比べると、「道路や公共交通が快適で便利なまち」の選択率が大きく増加（8.2ポイント）している。一方、「産業がさかんで働く場所が多いまち」の選択率が大きく減少（8.5ポイント）している。
- ・年齢が高くなるにつれ、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」の選択率が高く、60歳以上では、回答者の半数以上が選択している。また、10歳代では「犯罪や事故のない安全で安心なまち」、20歳代・40歳代では「道路や公共交通が快適で便利なまち」、30歳代では「子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち」を選択する割合が高く、各世代の関心を反映した結果となっている。
- ・三雲・石部南・菩提寺北では「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」を、その他の地区では「道路や公共交通が快適で便利なまち」を選択する割合が最も多い。

●【中学生】 どんなまちにしたいか（問6、P36）

- ・「犯罪や事故のない安心・安全なまち」、「森や川、公園など自然いっぱいのまち」、「道路や電車、バスなどの乗り物が快適で便利なまち」への支持が高い。
- ・前回調査と比べ、「森や川、公園など自然いっぱいのまち」、「身近に花や樹木がたくさんある美しいまち」の選択率が減少（5.9ポイント、4.3ポイント）している。一方、「道路や電車、バスなどの乗り物が快適で便利なまち」の選択率が増加（4.2ポイント）している。
- ・男性は「森や川、公園など自然いっぱいのまち」、女性は「道路や電車、バスなどの乗り物が快適で便利なまち」が最も多い。
- ・石部は「森や川、公園など自然いっぱいのまち」、甲西・甲西北は「犯罪や事故のない安心・安全なまち」、日枝は「道路や電車、バスなどの乗り物が快適で便利なまち」が最も多い。甲西北では「みんなが明るく、いじめや差別のないまち」が多く、他の中学校と比べても選択率が高い。

## まちづくりへの市民参加

●【一 般】 まちづくりで市民が参加できること（問6、P41）

- ・「住民が互いに協力し、地域を美しくすること」、「自分でできることは自分ですという気持ちを持って行動すること」、「地域で困っている人を地域で支え合うこと」への支持が高い。
- ・10～60歳代で「住民が互いに協力し、地域を美しくすること」が、70歳以上では「自分でできることは自分ですという気持ちを持って行動すること」が最も多い。

●【一 般】 まちづくりで自分が参加できること（問7、P44）

- ・今回調査の新たな選択肢である「あいさつや声掛けなどの活動」、「地域の花いっぱい運動や清掃活動」への支持が高く、回答者の4割以上となっている。
- ・「あいさつや声掛けなどの活動」と「地域の花いっぱい運動や清掃活動」の選択率が、女性は高い。

- ・10歳代・50歳代は「地域の花いっぱい運動や清掃活動」、それ以外の年齢では「あいさつや声掛けなどの活動」が最も多い。年齢が高くなるにつれ、「高齢者や障がい者を支援する福祉活動」の選択率が高くなる。

●【中学生】 まちづくりで自分が参加できること（問4、P47）

- ・「リサイクル活動や資源を大切にす活動」、「お店や会社での職場体験など地域のことを学習する活動」、「まちを花いっぱいにしたり、きれいにす活動」の選択率が高く、約4割が回答している。
- ・前回調査と同様に「リサイクル活動や資源を大切にす活動」が最も多いが、選択率は減少(7.2ポイント)している。
- ・女性は「お店や会社での職場体験など地域のことを学習する活動」と「まちを花いっぱいにしたり、きれいにす活動」が最も多い。
- ・甲西・石部・日枝は「リサイクル活動や資源を大切にす活動」が、甲西北では「お店や会社での職場体験など地域のことを学習する活動」が最も多い。甲西北では「伝統行事などを引き継ぐための活動」が、甲西では「高齢者や障がいのある人たちの手助けをす活動」が他の中学校と比べやや高い。

## 今後のまちづくりに必要なこと

●【一般】 人権尊重のまちづくり（問8、P50）

- ・「明日を担う子どもの人権確立の推進」と「高齢化社会に向けて高齢者の人権保障の推進」への支持が高い。
- ・前回調査と比べ、「明日を担う子どもの人権確立の推進」の選択率が増加(4.9ポイント)している。一方、「高齢化社会に向けて高齢者の人権保障の推進」は減少(7.6ポイント)している。
- ・年齢が高くなるにつれ、「高齢化社会に向けて高齢者の人権保障の推進」の選択率が高い。10歳代は「雇用機会の提供と就労支援の推進」、20～40歳代は「01.明日を担う子どもの人権確立の推進」の選択率が高い。

●【一般】 自立・自助のまちづくり（問9、P53）

- ・「政策や施策への市民意見の反映」、「まちづくりに関する情報公開の推進」、今回調査の新たな選択肢である「市政に関するわかりやすい情報提供」への支持が高い。
- ・年齢が高くなるにつれ、「市政に関するわかりやすい情報提供」の選択率が高い。また、20～50歳代では「政策や施策への市民意見の反映」、10歳代では「高速情報通信ネットワークの整備」の選択率が高い。

●【一般】 自然を活かし、自然と共生するまちづくり（問10、P57）

- ・全ての年齢・地区で「山林等へのごみの不法投棄の防止」への支持が高い。
- ・前回の調査に比べて、「山林等へのごみの不法投棄の防止」、「ごみの減量やリサイクルなどの資源循環」の選択率が減少(7.4ポイント、6.3ポイント)している。一方、「家族連れで

楽しめる公園などの整備」、「森林の整備、適正な維持管理」の選択率が増加（4.3ポイント、3.7ポイント）している。

- ・子育て世代にあたる30歳代では「家族連れで楽しめる公園などの整備」、40歳代では「森林の整備、適正な維持管理」の選択率が高い。
- ・石部南・菩提寺北では「森林の整備、適正な維持管理」を、三雲東・下田・水戸では「家族連れで楽しめる公園などの整備」を選択する割合が、それぞれ他の地区と比べ高い。

●【一般】生活基盤の整った暮らしやすいまちづくり（問11、P61）

- ・前回調査に引き続き、「JR草津線の複線化など鉄道の利便性の向上」、「歩道の拡幅や段差の解消など安全で快適に歩くことができる道路の整備」、「日常生活道路（市道）の整備」、「コミュニティバスの利便性の向上」への支持が高く、公共交通機関や身近な生活空間の質の向上が望まれている。
- ・「歩道の拡幅や段差の解消など安全で快適に歩くことができる道路の整備」と「コミュニティバスの利便性の向上」の選択率が、男性は低く、女性は高い。
- ・年齢が若いほど、「JR草津線の複線化など鉄道の利便性の向上」の選択率が高く、特に10歳代・20歳代では回答者の約6割が選択している。
- ・三雲・岩根・水戸では「JR草津線の複線化など鉄道の利便性の向上」の選択率が高く、回答者の半数近くを占めている。菩提寺・菩提寺北では「歩道の拡幅や段差の解消など安全で快適に歩くことができる道路の整備」が最も多い。また、三雲では「日常生活道路（市道）の整備」を、菩提寺・下田・水戸では「コミュニティバスの利便性の向上」を選択する割合が高い。三雲東では「駅前広場などの整備」を選択する割合が、他の地区と比べ突出して高い。

●【一般】産業がさかんで賑わいのあるまちづくり（問12、P65）

- ・厳しい経済情勢、雇用環境を反映し、全ての年齢、及び全ての地区で、「雇用の場の拡大に結びつく企業誘致」の選択率が高い。
- ・10歳代・70歳以上では「地域に密着した商業・サービス業の振興」の選択率が高い。一方、20歳代では「国道1号バイパス沿いにおける新たな商業集積の実現」の選択率が高い。
- ・身近に商業機能が不足している岩根・菩提寺や、商店街周辺の石部・下田では「地域に密着した商業・サービス業の振興」または「国道1号バイパス沿いにおける新たな商業集積の実現」の選択率が高い。

●【一般】健康で暮らし続けられるまちづくり（問13、P69）

- ・前回調査に引き続き、「医療機関の充実」、「健康診断など保健サービスの充実」への支持が高い。
- ・40歳代で「医療機関の充実」、10～30歳代では「健康診断など保健サービスの充実」が最も多い。また、30歳代では「救急医療体制の強化」を選択する割合が他の年齢に比べて高い。

●【一般】互いに支え合うまちづくり（問14、P72）

- ・前回調査に引き続き、「高齢者の生きがい支援や介護予防の推進」への支持が高い。

- ・60歳代以上で「高齢者の生きがい支援や介護予防の推進」の選択率が突出して高くなっており、いつまでも健康で活動的でいたいという意識が表れている。また、子育て世代を含む10～30歳代では「保育サービスや学童保育の充実」の選択率が高い。

●【一般】 安全で安心なまちづくり（問15、P75）

- ・「避難場所や避難地の安全の確保」、「犯罪を防ぐための地域の見回りなどの取り組み」、「防災に関する情報の周知、市民意識の啓発」への支持が高い。
- ・今回調査の新たな選択肢である「建物の耐震化への支援や河川の整備促進」と「学校内や通学時の安全性の確保」の選択率が2割近くを占めている。
- ・男性は「防災に関する情報の周知、市民意識の啓発」が最も多い。
- ・全ての年齢において「防災に関する情報の周知、市民意識の啓発」の選択率が高い。

●【一般】 誇りとなる市民文化を創造するまちづくり（問16、P78）

- ・「学校と家庭や地域との連携の強化」、「青少年の健全育成、社会活動への参加の推進」、「幼児期を含めた学校教育の内容や施設の充実」への支持が高い。
- ・女性は「幼児期を含めた学校教育の内容や施設の充実」が最も多い。
- ・子育て世代である20歳代・30歳代は「学校と家庭や地域との連携の強化」、50歳以上では「青少年の健全育成、社会活動への参加の促進」の選択率が高い。10歳代では「スポーツ活動の振興」の選択率が高く、4割近くを占めている。また、児童・生徒の親世代にあたる20～50歳代では、「幼児期を含めた学校教育の内容や施設の充実」の選択率が高くなっている。

●【一般】 行政サービスの水準と市民負担の関係（問17、P81）

- ・前回調査に引き続き、「行政サービスを削減してでも、負担を高めるべきではない」への支持が高く、回答者の5割近くを占めている。
- ・全ての年齢で、「行政サービスを削減してでも、負担を高めるべきではない」が最も多い。

●【一般】 効率的・効果的な行財政システムづくり（問18、P83）

- ・前回調査に引き続き、「迅速かつ柔軟に対応できる組織づくり」への支持が高い。また、「効果や効率性に配慮した事務事業の見直し」の選択率が増加（3.4ポイント）している。
- ・全ての年齢で、「迅速かつ柔軟に対応できる組織づくり」の選択率が高く、特に30歳代・40歳代で半数を超えている。

●【一般】 公共施設の再編（問19、P86）

- ・「財政負担を軽減するためには、ある程度の見直し（再編）はやむを得ない」が最も多く40.0%、次いで「財政負担を軽減するためには、積極的に見直し（再編）を進めるべきである」が35.5%と、再編に肯定的な考えを持つ回答者が7割を超えている。
- ・20～60歳代では「財政負担を軽減するためには、積極的に見直し（再編）を進めるべきである」の選択率が高い。
- ・菩提寺は、「多少財政負担が大きくなっても、公共施設の拡充整備は必要である」の選択率が他の地区に比べ高い。

## これまでのまちづくり

- 【一 般】 これまでのまちづくりについて評価できる取り組み（問 20、P88）
  - ・ これまでのまちづくりの取り組みについてはやや厳しい評価となっている。 回答者の 25%以上の支持を集めているのは、「豊かな自然を活かし、自然と共生するまちづくり」、「災害や犯罪が少ない安全で安心なまちづくり」の 2 つのみである。「すべての市民の人権が尊重され、自立・自助意識の高いまちづくり」、「産業がさかんで賑わいのあるまちづくり」、「効率的・効果的な行財政運営」を支持する人の割合は 10%以下に留まっている。
  - ・ 前回調査と比べると、「豊かな自然を活かし、自然と共生するまちづくり」の選択率が増加（3.7 ポイント）している。
  - ・ 10 歳代で「災害や犯罪が少ない安全で安心なまちづくり」の選択率が突出して高い。

## 湖南市の土地利用

- 【一 般】 土地利用方針（問 21、P91）
  - ・ 「生活道路や身近な公園の整備を進め、身近な生活環境や暮らしやすさを高める」、「まちの拠点機能を高めるため、石部駅周辺、甲西駅周辺、三雲駅周辺の 3 つの市街地に商業施設をはじめとする多様な都市機能を誘導する」への支持が高い。
  - ・ 10 歳代で「まちの拠点機能を高めるため、石部駅周辺、甲西駅周辺、三雲駅周辺の 3 つの市街地に商業施設をはじめとする多様な都市機能を誘導する」の選択率が突出して高い。
  - ・ 三雲東・石部・石部南は「まちの拠点機能を高めるため、石部駅周辺、甲西駅周辺、三雲駅周辺の 3 つの市街地に商業施設をはじめとする多様な都市機能を誘導する」が最も多く、特に三雲東では回答者の 6 割以上となっている。また、下田では「既存の商店街の活性化を図り、生活利便性を高める」の選択率が他の地区より高い。
- 【一 般】 拠点となる各市街地の整備のあり方（問 22、P95）
  - ・ 「本市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら石部駅、甲西駅、三雲駅の駅周辺のまちづくりを積極的に進める」、「空き家、空き店舗、空き地等の有効活用を進める」、「花と緑に彩られた街路樹の整備やゆとりのある歩道の整備などを進め、歩きたくなるような個性ある道路整備を進める」への支持が高い。
  - ・ 男性は「それぞれの市街地を結ぶ道路整備などを進め、各市街地のつながりを強める」の選択率が高い。
  - ・ 30 歳代は「空き家、空き店舗、空き地等の有効活用を進める」の選択率が 5 割近くを占めているが、10 歳代は 2 割と関心が低い。10 歳代は「それぞれの市街地を結ぶ道路整備などを進め、各市街地のつながりを強める」と「樹林地や河川など、身近な自然環境を活かした憩いの場づくりを進める」への選択率が他の年齢比べて高い。
  - ・ 三雲東は「本市の中心拠点として、それぞれの特色に配慮しながら石部駅、甲西駅、三雲駅の駅周辺のまちづくりを積極的に進める」の選択率が突出して多く、7 割を占めている。また、岩根・菩提寺・菩提寺北・下田は「空き家、空き店舗、空き地等の有効活用を進める」が最も多い。